

各関係機関長 様

佐賀県農業技術防除センター所長

イチゴのハダニ類は薬剤と天敵利用等を組み合わせて防除しましょう

平成27年産イチゴでは、11～12月の気温が平年に比べ高く推移したため、本圃でハダニ類が多発生しました。同様の被害を避けるため、本年は防除対策をより徹底する必要があります。ついでには、下記事項を参考に、生産者に対し定植前の防除指導を徹底してください。

記

1. 県内での発生状況

- 1) 本年8月下旬に行った県内圃場の苗の調査において、ハダニ類の発生圃場率は63.6%で平年よりやや高く、発生株率は14.9%（平年11.4%、前年7.6%）であり、平年よりやや多かった。（図1）。また、発生株率が48%と高い圃場がある（表1）。
- 2) 気象予報では、9月の気温は高く、降水量が並と予報されており、本虫の増殖に好適な条件となることから、多発生することが予想される。

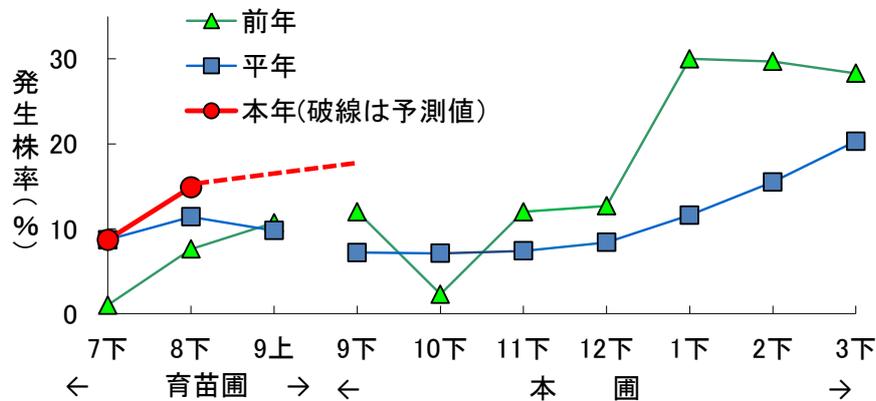


図1 イチゴハダニ類の発生株率の推移 (平成28年産)

表1 8月下旬の巡回調査圃場におけるイチゴハダニ類の発生株率

調査地点	圃場A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
発生株率(%)	48	44	24	20	16	8	4	0	0	0	0	0

2. 今後の防除対策 (図2参照)

イチゴのハダニ類については、後述するように薬剤感受性の低下により、薬剤の防除効果が十分に得られない場合も考えられるため、総合的な防除により対策を行う。

1) 耕種的防除

- (1) ハダニ類は薬剤がかかりにくい葉裏や下位葉に寄生していることが多いので、不要な下葉を除去し、圃場外で適切に処分する。

- (2) 薬液がかかりやすいよう、苗は十分な間隔を置いて並べる。
 (3) 圃場内、圃場周辺の雑草はハダニ類の発生源となるので、除草する。

2) 薬剤防除

- (1) 薬剤に対する抵抗性が発達しないよう、育苗期間中は、薬剤抵抗性の発達が少ないとされる気門封鎖系薬剤（粘着くん液剤、エコピタ液剤、アカリタッチ乳剤等）を活用する。ただし、これらの薬剤は卵に対して効果が無いので、5～7日間隔で計2回を1セットとして散布する。なお、薬害防止のため、これらの薬剤の高温時の散布は控える。
- (2) 農業試験研究センターが本年実施した薬剤感受性検定試験の結果、圃場によってはダニサラバフロアブル、スターマイトフロアブル等の薬剤に対する感受性が低下している個体群が確認されている（表2参照）。このため、薬剤を散布した後も発生状況を確認し、防除効果が低い薬剤の使用は控える。
- (3) ハダニ類の寄生のない苗を定植するため、定植前に効果の高い薬剤で仕上げ防除を必ず実施する。
- (4) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一薬剤の連用を避け、異なる薬剤のローテーション散布を行う。なお、薬剤防除の際は使用時期及び使用回数等の使用基準を厳守する。
- (5) 薬剤散布は、葉裏にも薬液がかかるよう、十分量を丁寧に散布する。なお、ベンチ育苗の圃場においては、ベンチ下からも薬液を噴霧する等、薬液が葉裏にもムラなくかかるように工夫する。

3) 生物的防除

- (1) ハダニ類に対する有効薬剤は少ないため、本圃の防除は生物農薬であるカブリダニ剤と殺ダニ剤の組み合わせによる体系防除を行う。なお、天敵導入前に天敵に影響の少ない薬剤を用いて、ハダニ類の防除を必ず実施する。
- (2) カブリダニ剤はハダニ類の密度が高いと十分な効果が得られない場合があるため、発生状況をよく観察し、適期に放飼する。また、ハダニ類の密度が0.5頭以上/複葉の場合は、天敵に影響の少ない薬剤（コロマイト水和剤、マイトコーネフロアブル等）を散布して、密度抑制を図る。

表2 県内各地域で採集したナミハダニの各種殺ダニ剤による補正死亡率^{a)}

(佐賀県農業試験研究センター, 平成28年)

有効成分の分類	薬剤名	希釈倍数	ハダニ採集地点									
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
カルボキサニド系 +フェニキニゾール系	ダブルフェースFL ^{c)}	2000倍	100	96	87	100	100	99	90	100	39	86
β-ケトトリル誘導体	ダニサラバFL	1000倍	24	18	37	19	100	3	0	100	12	14
β-ケトトリル誘導体	スターマイトFL	2000倍	96	100	98	98	100	100	98	100	85	80
ヒドラジン	マイトコーネFL	1000倍	100	—	—	100	100	100	—	100	79	99
マクロライド系	コロマイトEW ^{d)}	2000倍	100	100	85	87	100	100	100	42	67	77

a) インゲンマメ葉上に産卵されたナミハダニの卵に対して薬剤を処理し、未ふ化卵、死亡虫、生存虫を計数し、補正死亡率を求めた。

b) FL: フロアブル、EW: 乳剤、希釈倍数: 常用濃度希釈薬液

c) ダブルフェースフロアブルは天敵（ミヤコカブリダニ、チリカブリダニ）に影響あり

d) コロマイト乳剤の登録内容: 親株床（仮植え前） 1,000～1,500倍、使用回数2回以内

	月・旬		耕種的防除	薬剤散布及び天敵の放飼	防除上注意する点	
育苗床	8月	下旬	・下葉の除去 ・苗間隔広げ	粘着くん液剤 粘着くん液剤	5～7日間隔で連続散布する。	
	9月	上旬	・本圃内、周辺の除草	粘着くん液剤 粘着くん液剤	効果の高い薬剤で定植前の仕上げ防除を必ず実施する。	
中旬		スターマイトフロアブル				
定 植						
本 圃		下旬	・圃場内の除草 ・不要な下葉の除去 ・ハダニが寄生した葉の除去 			
	10月	上旬		(アファーム乳剤)	ヨトウ類との同時防除を図る。 (天敵との間隔を1ヶ月以上空ける)	
		中旬		天敵に影響が少ない薬剤(コロ マイト水和剤、マイトコーネフロア ブル等)	天敵導入前に密度抑制を図るため、 薬剤防除を実施する。	
		下旬				
	11月	上旬		スパイカル (ミヤコブリダニ) 2,000～3,000頭/10a放飼	ハダニ類の密度が0.5頭以上/複葉の 場合は、天敵に影響の少ない剤(マイ トコーネフロアブル、コロマイト水和剤 等)を散布する。	
		中旬				
		下旬				
	12月	上旬		スパイデックス (チカブリダニ) 2,000～3,000頭/10a放飼		
		中旬				
		下旬				
	1月	上旬				
		中旬				
下旬						
2月	上旬	スパイデックス (チカブリダニ) 2,000～3,000頭/10a放飼				
	中旬					
	下旬					
3月	上旬	スパイデックス (チカブリダニ) 2,000～3,000頭/10a放飼				
	中旬					
	下旬					
4月	上旬					
	中旬					
	下旬					
5月	上旬					
	中旬					
	下旬					

図2 育苗期後半～本圃初期の天敵を用いたハダニ類防除の例

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部
 〒840 - 2205 佐賀市川副町南里1088
 TEL (0952) 45 - 5297 FAX (0952) 45 - 5085
 Mail nougyougi jutsu@pref. saga. lg. jp